

波佐・小国地域活性化計画

—— 平成21年度～平成25年度 ——



「縁の里づくり委員会」

波佐・小国地域活性化計画の背景

1) 地域の概況

- ・環境立地 ……… 広島県境から国道 186 号線を中心に日本海側に沿った、標高 500m ~ 250 地帯に位置する山間準高冷地で、積雪も平年で 60cm 近くも降り、近隣スキー場へのアクセス道、又夏は日本海への海水浴や魚釣りの通行車輻で、交通渋滞を起す程であった。しかし、近年浜田自動車道の開設とレジャー客の減少とにより、国道 186 号沿線のドライブインや、商店は軒並みに閉店を余儀なくされている。
- ・住民構成 ……… 農林業中心の地域で水田面積 156.4ha、生産戸数 245 戸と極めて零細農家群であり、高齢化率も平均 42%、中には 60%に近い集落も数ヶ所存在し、危機的な地域といえる。
小学校も現在 1 校のみとなり、小国小学校の統廃合影響は計り知れないものが有る。
- ・地域資源 ………

自然	波佐八幡宮の千年大杉（天然記念物県指定）、桂の大木（天然記念物市指定）、周布川流域のホタル、河鹿蛙、小猿の滝、竜頭の滝、雲月山、金木山
史跡	波佐一本松城、笠松峠の石畳、花城、小国城
人物	能海 寛、島村抱月
産物	手漉き和紙、サバ寿司、ワサビ葉寿司、手作り豆腐、こんにゃく、田舎手打ちそば、うづめ飯、ピオーネ
施設	エクス和紙の館、歴史民俗資料館、ほたる湯館、ほたる養殖場、グランドゴルフ場、城山グランド、亀遊公園、島村抱月顕彰の杜公園 若生まなびや館 波佐常磐八幡宮、小国最中山神社、浄蓮寺（能海寛生家）、旧波佐中学校体育館（一部使用中）寄宿舍、旧小国小学校校舎（一部公民館）体育館、プール、波佐老人集会所（一部使用中）、波佐さんあいホーム（遊休）若生まなびや館

2) 経済の状況

- ・農林業 ……… 米作を中心とした地域で以前は、畜産や林産物生産等頑張っていたが、高齢化と後継者不足、加えて販売価格の不安定から激減の一途をたどっている。
そのような中で「集落営農法人」の誕生は、地域の課題解決に大きく寄与し、頼もしい組織と評価できる。
- ・その他産業 ……… これといった目立つ産業はなく、恵まれた自然環境と地域が持つ様々な施設を最大限に活用した都市と農村との交流事業こそが、今最も自力で出来る活性化活動と確信する。

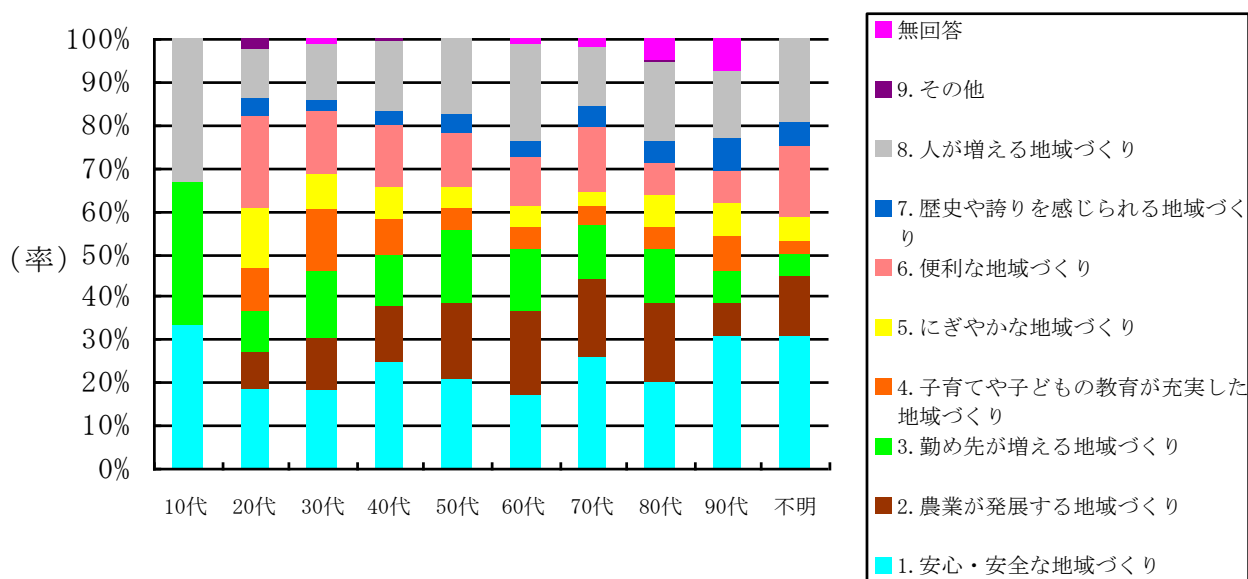
3) 住民の要望

・住民アンケートの実施（平成 20 年 12 月実施）

…… 縁の里づくり委員会が波佐地区と小国地区の住民に向けて実施したアンケート調査では、住民が望む地域づくりとして「安心・安全な地域づくり」の要望が全体的にも、各世代を通じて最も多いという結果が得られた（回答者 505 人中 309 人が要望）。

またその他、各年代の要望が多かった意見として、「人が増える地域づくり」（同 234 人）、「農業が発展する地域づくり」（同 233 人）、「働く場のある地域づくり」（同 192 人）といった、地域の産業活性化に深く関わる意見が多くみられてもいる。

波佐・小国地区の住民が地域づくりに望むもの（年代別）



・自治振興会・町内会での座談会の開催（平成 21 年 11～12 月）

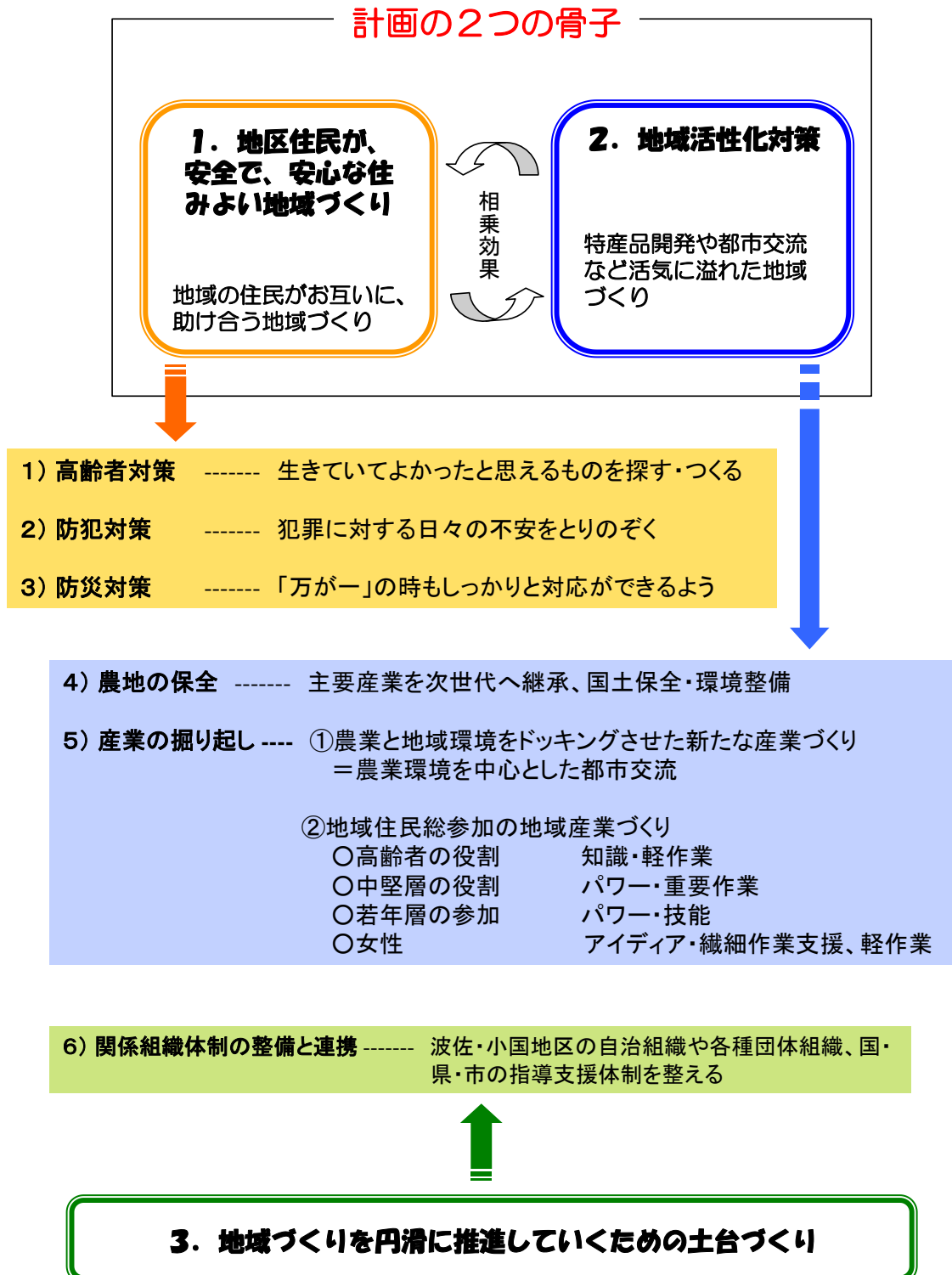
…… 上の結果をうけて、その要望をさらにくわしく聞いていくために波佐・小国地区で「安全で安心な地域づくり」をテーマにした座談会を行ったところ、具体的に「防犯」、「防災」、「交通」、「独居高齢者の生活」に関する悩みが多く聞かれた。またその他にも、「若者の定住」、若者や高齢者の「働く場が少ない」という地域の産業活性化に深く関わる意見も挙げられている。

以上の住民の要望を受けて、「波佐小国活性化計画」では、「安全で安心な地域づくり」と「地域の産業活性化」を盛り込んでいく。

波佐・小国地域活性化計画の骨子と内容

波佐・小国では、「地区住民が、安全で、安心な住みよい地域づくり」と「地域活性化対策」の2つを大きな柱として、地区の住民と自治組織、各種団体、そして行政機関との連携を取りながら地域づくりに取り組んでいく。

また具体的に、下図の1)～6)の取り組みを実施する。



具体的な計画

その-1 安全で、安心な地域づくり

テーマ： 『いつまでも住み続けたいと思う、不安のない里づくり』

1. 高齢者対策 ～生きていてよかったと思えるものとともに探す・つくる

1) 高齢者の生きがいづくり

【参考】 ひとり暮らし高齢者への訪問調査、座談会にて①

「縁の里づくり委員会」では、波佐・小国地区のひとり暮らし高齢者 50 人中、45 人に対して、日頃の悩みや要望等の訪問調査を実施した（うち回答数は 20 人）。その結果、「日頃の見まもり」や「声かけ」、「災害時の支援」に対する制度を求める声があった。

また平成 21 年 11～12 月に町内会、自治振興会ごとに実施した座談会でも同様な要望があり、さらに「ふだんから集い、話し合いのできるところがほしい」という要望も強く挙げられている。

(ア) ひとり暮らし高齢者への見守り支援の活動

- ◇ この結果を受け、特にひとり暮らし高齢者への「見まもり」、「声かけ」を積極的に実施すること、同時に、災害時のひとり暮らし高齢者への重点的な支援が必要だと考える。
- ◇ ひとり暮らし高齢者への「見まもり」、「声かけ」については、地域みなさんに意識的に取り組んでもらうための啓発をはじめ、日頃のひとり暮らし高齢者の情報をみなさんから吸い上げるための仕組みづくりを行うために、縁の里づくり委員会と関係組織（民生児童委員、地区社協など）との間で検討を行う。
- ◇ 「災害時の支援」については、浜田市の「避難支援制度」（平成 21 年 6 月開始）と一部重複があるが、縁の里づくり委員会と関係組織（民生児童委員、地区社協など）とで検討し、よりよい方向へと進んでいくようその方法を検討する。
- ◇ その他、ひとり暮らし高齢者の要望についての必要な措置を地区内の関係組織の話し合いによって検討し、各関係組織が一体となって取り組んでいく。

(イ) 交流の場づくりの推進

- ◇ ひとり暮らし高齢者の「交流の場」の要望に対して、既存の施設の活用によるサロンづくりを視野に入れて、その要望を満たせるよう検討する。
- ◇ この要望に対しては、町内会、自治振興会ですでに実施している、あるいはしつつある状況にある。そこで、取り組みとしては、まず町内会、自治振興会単位で行う

ことを基本とし、対応が困難な場合は地区単位（波佐上・波佐下・長田・小国）での実施を検討する。

- ◇ またこの要望に関して、各町内会、自治振興会、または地区などから手助けの声があるようであれば、縁の里づくり委員会が中心になって関係組織で支援策について検討し、波佐・小国地区に高齢者のための交流の場を築く支援を講じていく。

2) 生活支援の充実

【参考】 座談会にて②

特に「草刈り」（計 33 件）や「除雪」（計 24 件）への要望が多く挙げられている。また、移動や交通に関する要望（計 47 件）も多く見られている。

- 例) 「高齢の独り暮らしで、冬の間は家の周りなどの雪かき。掘っても掘っても連日雪が積もる。」
「草刈りをしなければならぬ場所が多く毎年刈り取れるか心配。」

- ◇ こうした生活支援の要望に関しては、社協ですでに「金城やすらぎ福祉事業」を実施している。そこで、同事業への望ましい支援のあり方について、縁の里づくり委員会が中心となって検討していく。
例) 現在、同事業が実施されていることを住民に情報提供すること、など。
- ◇ 「移動」に関する要望については、歩道の整備によって特に電動車の利用が今後増加する可能性がある。こうした電動車補助の支援策に関して、縁の里づくり委員会が中心になって行政機関への意向確認を行い、その情報を住民にお返しする。
- ◇ その他、地域住民、特に高齢者の生活の充実を図れるような取り組みについて、町内会、自治振興会、民生児童委員、社協、縁の里づくり委員会等の関係組織が一体となって取り組んでいく。

2. 防犯対策 ～犯罪に対する日々の不安をとりのぞく

【参考】 座談会にて③

特に山間部での凶悪犯罪の多発傾向を受け、上記座談会では、「外灯設置」（計 26 件）や「防犯への不安」（計 12 件）の声が多く挙げられている。

- 例) 「外灯が少なく夜道が怖い。」
「セキュリティが出来ていない。何かあった時、緊急の連絡の取り方。となりに知らせたくても、離れていても大声出しても聞こえないが、どうすれば良いか？」

- ◇ 特に「外灯の設置」に関しては、住民のこうした不安の声を受け、各町内会、自治振興会ごとに、ひとまず今年度のところで、外灯の設置費用に関する補助が出ている。また、今後にかけても、外灯設置の要望に対する浜田市の補助が期待できる状況にある。
- ◇ こうした状況から、今後、各町内会、自治振興会ごとに新たな外灯の設置箇所などに関する協議が活発化することが期待される。そこで、縁の里づくり委員会では、外灯の設置箇所や設置検討箇所に関して、「マップによるデータベース化」（詳細は後述）を行うことで、話し合いの円滑な進行を支援していく。
- ◇ また同時に、防犯に関して、まずは出来ることから実行に移し、日頃の不安を取り除くことが望まれている。各町内会、自治振興会を中心に、地区内の関係組織が一体的に支援を行い、今後継続的にその対策について検討し実施に移していく。
例)「防犯対策講習会」、「学童見守り隊」、「青色パトロール車」 など
(まずは特定の地区から順次はじめていくことを検討)

3. 防災対策 ～「万が一」の時もしっかりと対応ができるよう

【参考】 座談会にて④

山間部であり、各家が点在するこの地区では、災害に対する悩みも多いということが座談会で明らかになっている。特に、「災害時の避難場所を知らない」、「避難所までの場所が遠い」といった意見が挙げられており、緊急避難に対する不安がこの悩みの原因の一つだという示唆が得られた。

【参考】 波佐・小国地区の避難箇所

- 現在の避難所設置数は、波佐で4箇所、小国で2箇所
- 浜田市の避難準備情報発令で開設する避難所
波佐：ときわ会館
小国：おぐに会館
- 浜田市の避難勧告または避難指示で開設する避難所
波佐：小学校、八幡宮、浄蓮寺
小国：柚根集会所

- ◇ 「避難箇所がわからない」という声に対して、住民各自が日頃から避難所と避難ルートを確認しておくための方策について、町内会、自治振興会が中心となって検討し、必要な措置を講ずる。
- ◇ また、「避難所までの場所が遠い」といった声に対しては、一時避難所の設置の検討、またはグループ体制での避難体制の整備など、老若男女問わず速やかに一人もらさず避難できるような体制づくりを行なえるよう、町内会、自治振興会ごとに話し合いを行なうことを検討する。

- ◇ これらの話し合いにおいて、話し合いを円滑に進めていくための支援策として、縁の里づくり委員会では、災害ポイントや避難所、避難ルートに関して「マップによるデータベース化」を行い、その情報を各町内会、自治振興会へ提供する。
- ◇ また、町内会、自治振興会ならびに地区内の関係組織が中心になって、避難所の場所を住民一人ひとりがしっかりと把握できるよう必要な対策を講ずる。
例) 地区内への立て看板の設置、避難所地図の各戸への配布 など

【参考】 「マップによるデータベース化」について

- 縁の里づくり委員会では、平成 21 年より、地区内の様々な情報を地図におとし、パソコンにデータベースとして保存する活動を行なっている。
- 現在、小国地区において「名所・史跡マップ」を作成。縁の里づくり委員会では今後、防災・防犯に役立つ情報をはじめ、各種情報を地図におとしていくことで、町内会や自治振興会の話し合いを円滑にする支援を行なっていく。
- 防災・防犯の情報に関しては、行政機関をはじめ、各町内会、自治振興会の情報提供を受けて作成していく。

小国名所・史跡マップ（平成 22 年作成）



テーマ： 『農業を基盤とした観光交流の里づくり』

1. 実施の内容

1) 水田を活用した農業体験イベント

- ◇ 波佐・小国地域は準高冷地帯に位置し、肥沃な火山灰土壌での米食味は広く評価を受けている処である。各戸平均耕作面積も少なく春・秋の農作業も大型担い手農家を除けば、若干の時間的余裕は有り、各種農業体験のイベントは受け入れ可能と言える。昔ながらの農作業に加え近代的な大型機械（トラクターやコンバイン等）の運転体験なども面白いと思える。
- ◇ また波佐には農具を中心とした歴史民俗資料館も在り「米づくりの歴史」懐古も見逃せない。
- ◇ 水田生産調整に伴う転作田では、トウモロコシ・サツマイモ・バレイショ・タマネギ等、各種「収穫体験」イベントも考えられる。
- ◇ 果物についても、近年より「ピオーネの産地づくり」を実践中であるが、先々観光農園も視野に入れ、加えて「柿」「イチジク」「柚子」等は相当量が収穫の日の目を見ずに冬を迎えている状況である。
これらをうまくコラボすることにより、より満足感のある体験事業が想定される。

<主なイベント>

- ◎田植体験・稲刈体験
- ◎大型農機運転体験（トラクター・コンバイン）
- ◎野菜収穫体験（トウモロコシ・サツマイモ 他）
- ◎果物狩り（柿もぎ・イチジク・柚子・ぶどう）
- ◎もちつき体験・やきいもづくり体験
- ◎そば打ち体験
- ◎お茶摘み加工体験
- ◎各種加工体験（ジャム・味噌づくり・豆腐・漬物）

2) 豊かな山・川を採り入れた体験イベント

- ◇ 当地域はその殆どが山林と河川でおおわれ、春の芽吹き時期での山菜採りや加工・食味体験、加えて緑豊かなオソンの癒し体験又、金木山と大佐山を代表とする広葉樹が織り成す秋の紅葉は、他に類を見ない圧感コース。
- ◇ 夏は、周布川の源流が清らかな山里を一層充実させてくれる。ヤマメ・ゴギを中心とする溪流釣りに加え、毎年釣りこうぼう達は、アユ漁の解禁を待ちかねている。
- ◇ 近年人気を博している、「フライフィッシング」の全国大会等も企画に位する。
- ◇ 清らかな川沿いでの夏休み学生村の開村は、都会でのあわただしい環境よりも窓から流れ込む自然の清風に包まれ、夕方の「カシカガエル」の声を聞きながら精一杯の「受験勉強村」「夏休み宿題・絵日記塾」開校。又学生児童を対象としたスポーツクラブの合宿村の展開も視野に入れ「若生まなびや館」や、現在遊休施設の「旧小国小学校」「旧波佐中学校寄宿舍」等の存在は誠に恵まれた環境施設と言わざるを得ない。

<主なイベント>

- | | | |
|----|-----------------------------|---|
| 山里 | ◎ 山菜採り | ◎ 山野草趣味の会山巡り |
| | ◎ 秋の紅葉狩り | ◎ 春を食べる会（山菜採り＋調理体験）
（ワラビ、ぜんまい、フキ、きのこ類、たけのこ、栗、タラの芽） |
| | ◎ 天の川観賞ツアー | ◎ 自然観察会 |
| 河川 | ◎ ヤマメ釣り（大会も計画） | 周布川漁協 |
| | ◎ アユ釣り（ 〃 ） | — 〃 |
| | ◎ フライフィッシング大会（波佐釣りクラブ） | |
| | ◎ ほたる祭（ほたる同好会） | |
| | ◎ 川遊び 沢登り | |
| | （ヤマメ、イワナ、ゴギ、ウナギ、アユ、ウグイ） | |
| 施設 | ◎ 学生村開村
（ホームステイ）
（合宿） | 「受験勉強村」
「小学生の夏休み宿題と絵日記」コース
「学生のスポーツ合宿村」 |
| | ◎ 若生まなびや館 | |
| | ◎ 旧波佐中学校寄宿舍 | |

3) 歴史文化の紹介探訪ツアー

- ◇ 当地域が誇る島村抱月や能海寛の史跡や資料を求めて記念館を中心に、数多くの観光客が訪れている。また今最も元気の良い「石見神楽」であるが、浜田地域には百数十もの神楽団が存在する中で、「旧舞」と称する6調子の舞は数少なく、重厚なその舞にややもすれば、「観光ショー」的な神楽に飽きを覚える客層には、答えようのない魅力を発揮する。
- ◇ 当地域には、小国と波佐で2団体が存在し、勇壮な神楽テンポに何故か若者は熱烈なファンとなり、「波佐常磐倶楽部」では中学生・高校生の団員まで数多く入団している。
- ◇ この様な伝統芸能（神事）を時有る毎に発表し、波佐・小国地域のファン層を一層多くしたい。

<主なイベント>

◎石見神楽観賞 (波佐常磐倶楽部)
(小国神楽団)

◎波佐・小国文化祭の都市交流メニュー 各公民館

◎歴史資料館見学 →金城歴史民俗資料館-----西中国山地民具を守る会

◎田舎暮らし体験 -- 縁の里民泊友の会・若生まなびや館

◎歴史史跡巡り → 石畳峠
能海寛史跡
たたら跡

◎ウォークラリー 波佐文化協会

◎グランドゴルフ大会 波佐・小国温泉組合

2. 受入れ体制の整備

1) 各種団体組織との連繋 ～地元各団体組織

山野河川	周布川漁業協同組合 波佐釣りクラブ 若生まなびや館 金城スキー山岳会 ほたる同好会
農業体験	ひやころう波佐 てこの里おぐに 縁の里民泊友の会（新）
学生村	縁の里民泊友の会（新） 若生まなびや館 田舎のお母さんの会（新）
歴史文化	波佐文化協会 西中国山地民具を守る会 島村抱月顕彰会 波佐常磐倶楽部 小国神楽団 小国自治振興会 小国公民館 波佐自治会 波佐公民館
都市交流	若生まなびや館 ひやころう波佐 縁の里民泊友の会 菜再きんさい産直市場 波佐・小国温泉組合 ほたる同好会
経 済	NPO法人「えにしの里」 菜再きんさい産直市場 地元各商店

2) 県外組織との連繋

- ◇ 広島金城会
- ◇ 県外各地の島根県人会
- ◇ 姉妹都市
- ◇ 産物提携産地づくり 例（米産地とみかん産地の縁組み）

3) 年間受入れ計画の整理 各団体が計画する行事のとりまとめ

4) 募集の方法 広島浜田PRセンター
JA観光
ひろでん中国新聞旅行
JTB

5) 観光客の受入れ施設 (案)

◇ 学生村の整備 農家民泊、遊休施設活用

◇ 若生まなびや館 夏休み、各種体験

◇ 旧波佐中学校寄宿舎 (15人×7日×2班=60人)
(合宿できる内容に改修必要)

◇ 旧小国小学校 (20人×7日×2班=280人)
(宿泊施設改装必要)

◇ 農家民泊友の会の増強

・ グ린ツーリズム加入による増強

波佐・小国で30戸育成

・ 1日当り受入れ可能総数 $30戸 \times 4人 = 120名$

年間 $3回 \times 120名 = \underline{\underline{360名}}$

◇ 将来的には中学・高校生の農業体験修学旅行の受皿として「連泊可能な」民泊村を目指す。

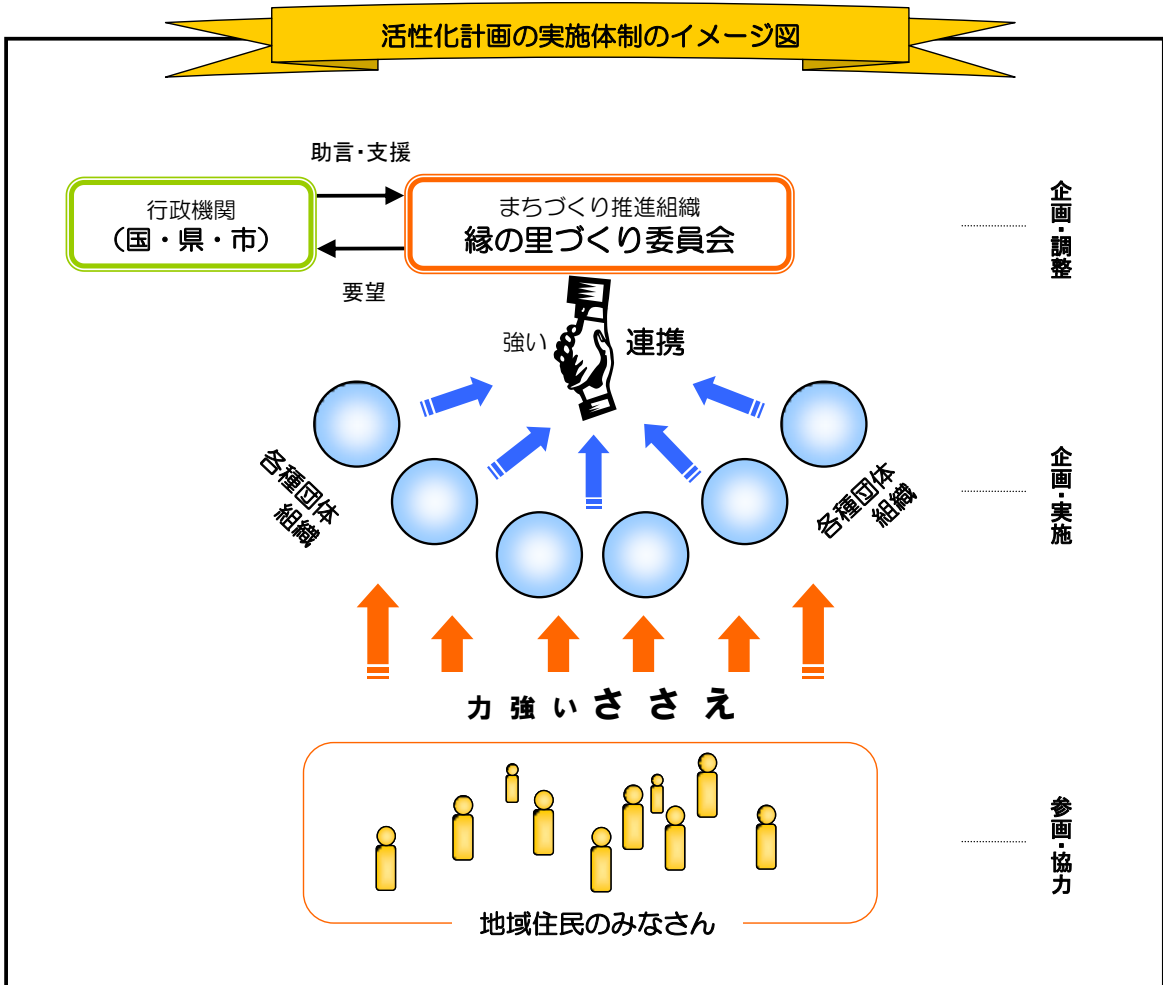
(100人 (25農家×4人引受) × 3泊~4泊) 組を年間2校受入れ

= $300人 \times 2校 = \underline{\underline{600人引受}}$

その-3 地域づくりを円滑に進めていくための土台づくり

1. 関係組織体制の整備と連携

- ◇ 自治組織との連携 地域住民とのパイプ
- ◇ 地元各種団体組織との連携 専門分野の担当及び躍進
- ◇ 国・県・市の支援体制 地域づくりの基本・中心施設の設置支援



2. 『地域振興施設』の設置 仮称（地域交流振興センター）

【設置の背景】

浜田自動車道建設に伴う国道 186 号線の急激な通行客数ダウンによる経済低迷は、自ら地元住民によるアイデアと努力によって挽回させるに他ならない。その上にも中枢機能を持つ「地域振興施設」は必須の施設である。

【施設概要】

- ◇ 情報発信拠点 ----- 年間行事やふるりの野山の移り変わりの情報発信（情報交換室）
- ◇ 都市交流受入拠点 --- 年間イベントによる募集案内や引受け拠点（事務室）
- ◇ 地域特産品の紹介販売拠点 ----- 特産品の販売（産直市場）
（高齢者の生きがい対策として）
- ◇ 荒廃農地解消対策
- ◇ 交通案内や休憩の場 ----- ほたる湯館・グラウンドゴルフ場（隣接施設）
駐車場・トイレ・携帯電話使用場
- ◇ 冬場のタイヤチェーン着脱場・タイヤ交換エリア

【想定される効果】

- ① 産直市場が身近で開設され、地元の農林産物販売の機会が大幅に増大し、高齢者を始めとする生産者の生甲斐にも大きく寄与するものである。
- ② 民泊・合宿事業の展開は、やや高齢者でも若い女性層等地域の協力の基に外に勤めに行かなくても、わが家で家族総ぐるみの収益事業が可能となる。

3. その他、必要な器具の整備に伴う波佐・小国の共有化

- ◇ 上記施設の設備をはじめ、波佐・小国の各地の催事等で利用するための器具の購入等に際して、今後は、助成金、補助金を活用して波佐・小国での器具の共同利用を促進していく。
- ◇ 現在のところ、縁の里づくり委員会では催事用の野外テントを購入している。また、マイク、スピーカーを備えた音響装置の購入も決定している。これらをはじめ、地元住民や各地元団体の要望に応じて、波佐・小国で共同利用できるような器具の購入を、縁の里づくり委員会で継続的に行なっていく。

波佐・小国活性化イベント計画表

波佐・小国活性化計画組織機構イメージ図

< 浜田市 金城町 >

